









自動車リサイクル法  
制に関しコメントをし  
続けてきた日刊市況通  
信社は、このほど『自  
動車リサイクル法・ビ  
ジネス解説』シリーズ  
の第6弾を発刊した。  
新法の輪郭が不鮮明  
だった第2弾までは、  
予想される法制の姿を  
指摘し、政省令の公表  
を受けた第3弾では、

関係施行令・規則を明示  
しつつ、その大まかな枠  
組みの全體像を探った。  
それに続く第4弾、第5  
弾は徹底的にビジネス実  
務の実際にこだわった。  
今回の第6弾は、第5

回の第6弾は、第5  
回で示したデータ・資料分析を  
さらに深め、①使用済自動車そ  
のものの基本的な需給構造など  
うなっているのか  
(鉄スクラップ、非鉄相  
場は近年どう動いたか)  
の3点を中心にその全体

### 『自リ法ビジネス解説第6弾』

理能力の推移実態はどう  
か。③さらに足元の解  
き合せは、日刊市  
況通信社(電話03-  
3864-6021、E-mail:  
info@mjji.jp)まで。

# 24時間テレビ 富士山をきれいにするプロジェクト



「24時間テレビ富士山  
をきれいにするプロジェ  
クト」は今年で3回目の  
取り組み。この間に延べ  
3117人のボランティ  
アが参加し、68トモのゴ  
ミを撤去した。第3回目  
のプロジェクトの模様は

24時間テレビ「富士山をきれいにしよう」  
ごみ総収集量

山梨県		
一般廃棄物	可燃ごみ	4,060kg
	不燃ごみ	1,140kg
	ビン	700kg
	缶	1,000kg
	バッテリー	1本
産業廃棄物	ガラキ	3,500kg
	廃タイヤ	31本
	テレビ	1台
	金属	1,070kg
山梨総重量		約12トン
※不法投棄車両を除く		7台

  

静岡県		
一般廃棄物	可燃ごみ	3,460kg
	不燃ごみ	3,000kg
	金属	2,600kg
産業廃棄物	家電5品目	67台
	廃タイヤ	200本
静岡総重量		約14トン

## 放置車両7台を撤去 山梨県カーリサイクル協同組合が協力

日本テレビ系列で毎年放送している「24時間テレビ」の一環として「富士山をきれいにするプロジェクト」が7月30日実施された。1006人のボランティアが参加し、山梨、静岡の両県の富士山麓12カ所で清掃を行った。この取り組みに、地元山梨県カーリサイクル協同組合も協力。放置車両7台を撤去し適正な処理を行った。

8月26日、27日に放映された24時間テレビで紹介された。

しかし一方、地元自治体やボランティア団体などを中心に富士山の環境問題改善に向けた動きも徐々に広がっている緒がある。

しかしその一方、地元に地元の自動車解体業者でつくる山梨県カーリサイクル協同組合(岡

じみ事実。今回の清掃活動もそうした活動の一環だ。同プロジェクトに参加したアルピニストの野口健さんも、自ら呼びかけて、何度も富士山周辺の清掃活動を実施している。

こうした取り組みの趣旨に、地元の自動車解体業者でつくる山梨県カーリサイクル協同組合(岡

武幸理事長)も賛同。同協組では、常利事業と社会貢献事業の両面に取り組む方針を掲げ、これまでにも自治体と連携して、樹海に放置された車両を動員して、樹海に放置された車両を撤去し、樹海に放置された車両を撤去する取り組みは、これまで年1回のペースで続

いてきた。今年はこの他に10月から11月頃に県内公共地に放置された車両を撤去・処理する計画。

岡武幸理事長は「放置車両の取り組みは、これまで年1回のペースで続けていたが、県内の放置車両の取り組みは、これまで年1回のペースで続けていた」と話した。

武幸理事長も賛同。同協組から15社(15名)が

で継続して行ってきた。

岡武幸理事長は「放置車両を動員して、樹海に放置された車両を撤去する取り組みは、これ

まで年1回のペースで続けていた。今年はこの他に10月から11月頃に県内公共地に放置された車両を撤去・処理する計画。

岡武幸理事長は「放置車両の取り組みは、これまで年1回のペースで続けていた」と話した。

武幸理事長も賛同。同協組から15社(15名)が

で継続して行ってきた。

岡武幸理事長は「放置車両を動員して、樹海に放置された車両を撤去する取り組みは、これ

まで年1回のペースで続けていた」と話した。

武幸理事長も賛同。同協組から15社(15名)が